

団体名:名東プレーパークの会

焚火の会

■活動の内容

プレーパークは、子どもたちが自由な発想で「やりたい!」と思うことをなるべくできるよう、禁止事項を極力なくした外遊びの場。名東プレーパークの会は、転勤族の多い名東区で、年齢制限なく子どもがのびのびと遊ぶ場を提供することで、親子が集う場、地域のつながり作り、子育てしやすい街の醸成を目指し活動しています。今回は冬休みに開催の‘焚火の会’を視察しました。

- 日 時 令和6年12月26日(木)10時~15時
- 場 所 明が丘公園(名東区・明が丘)
- 内 容 焚火の会
- 参 加 多数



日差しのぬくもりが心地よく感じられる凜とした空気の冬の昼間。公園の入り口の坂道は、遅かった季節の進行を物語るようにあちこち落ち葉で敷き詰められています。その先を進むと、焚火の香り、そして子供たちの嬌声。「そろそろ火はOK! みんな焼きたい物を持ってきてー」とかけ声がかかると、家から持ち寄った「焼きたいもの」を順番に火の中へ。周囲では、枝にロープを巻いてぶら下がったり、落ち葉、小石などあるもので思い思いの遊びをする子供たち。



手際よく鍋の味噌汁を仕上げていく団体メンバーの皆さん。味噌汁の具の持ち寄りを事前に呼びかけ、野菜やわかめ、ちくわ、そしてだし昆布の香りがたまらない味噌汁が完成。定番の焼芋、マシュマロも混じり、にぎやかな焚火の会が繰り広げられています。子供も大人も揺れる炎を囲み、自然とリラックス。会話が弾みます。寒いはずの冬空の下、心はあったかい時間はまだまだ続きます。

4月に結成され活動を始めたばかりの団体。月一回のペースでプレーパークを開催しており、季節ごとにその季節ならではの遊びを取り入れるなど工夫し、プレーパークが地域に定着することを目標に活動しています。今回の焚火の会はその特別会。今回も多くの子供が参加、外遊びをする場自体がなく、その機会がないことを危惧し、定期的に外遊びの場づくりをすることを通じ、「孤育て」を防ぐ環境づくりに繋がれば・・・との思いの輪が確実に広がっています。今後も活動を応援していきたいと思います。